

創立後6年目を迎えた法科大学院では、新司法試験において平成21年に162名が合格し、過去4年間での新司法試験合格者総数は642名となりました。この間の法科大学院からの旧司法試験合格者58名も加えると、司法試験合格者総数は700名に達します。法科大学院出身法曹は、ますます高度化・複雑化する社会のニーズに応え、全国津々浦々、各界の様々な局面に職域を開拓して、司法制度改革の担い手として活躍を始めています。

文部科学省の専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム(GP)に選定の「グローバル化に対応した法曹養成プログラム」が実施され、法科大学院生による

海外での研修活動、外国のロースクールとの交流、国際シンポジムの開催など、わが国における国際法曹養成の先駆的取り組みが続けられています。また、修了生のなかには、本年、日米双方の司法試験に合格した人がおり、国際的な活躍が期待されています。

成果をあげている法科大学院教育課程のいっそうの充実を計るため、学修支援態勢の強化や厳格な進級判定制度の導入など、弛まぬ改革努力が重ねられています。また、中大法曹会奨学金の給付が開始されるとともに、修了生支援の強化、中央大学法科大学院同窓会(CLS ALUMNI)をベースにした修了生による在学生への学修支援活動などが、積極的に展開されています。

■ 裁判員裁判に対応して模擬法廷を改装

広く国民に開かれ国民参加による司法を実現するため、2009年5月から、裁判員制度が導入されました。これに対応して、本学法科大学院の教育施設のシンボルとも言える模擬法廷教室が改装されました。

裁判員席が増設され、壁面にプレゼンテーション用大型ディスプレイが2基設置され、各席へのモニター用ディスプレイの設置が可能となり、IT化された裁判員裁判法廷としても利用できる模擬法廷教室に生まれ変わりました。その他、ロビーには、裁判員評議ス

ペースの設置も計画されています。

これらの施設は、法科大学院の模擬裁判など実務基礎教育科目の実施に活用されることはもちろんですが、わが国における裁判員裁判制度の定着に向けて、各種の広報や裁判員研修にも役立てていくことが予定されています。



改装された模擬法廷教室



藤沼垂起教授による公開講座

開校2年目を迎えたビジネススクール(戦略経営研究科)は、1年目の活動からそれぞれの特徴を活かすモデルを策定し、運営を行っています。

「研究・教育のリソース」としてのMBAプログラムを中心とし、そのプログラムを活用した「知の還元」としての広く社会へ向けた無料の公開講座、「知の提供」としてのビジネスパーソン及び企業向けの有料セミナー、「知の交流」として様々な目的でのMBAプログラムへの科目等履修制度、それぞれが有機的に環流するシステムを今後も提供していきます。